

No.813 2011年12月5日

ARIBからのお知らせ

「電波産業年鑑 2011」を発行

11月30日に「電波産業年鑑 2011」を発行しました。

電波産業年鑑は、電波産業の実態を的確に把握できるよう、情報を関係者に提供し、電波利用への理解促進を図るとともに、通信・放送事業における事業計画立案等に役立てることを目的に、当会の調査統計小委員会で編集し毎年発行しています。

本年度発行の「電波産業年鑑 2011」は、電波産業に関する情報・データを網羅した5つの章及び資料編からなる「本誌」と、電波産業調査統計（～統計で見る電波産業の推移～）をまとめた「別冊」の2分冊により構成（下記参照）されています。また、付録 CD-ROM に、2011年版と2010年版の本誌・別冊及びARIBの活動等の参考資料をカラーのPDF形式で収録しました。本CD-ROMの内容は、ARIBの会員向けWebサイトでもご覧いただけます。

会員の皆様には、11月30日に発送いたしました。追加等必要な方には、実費(2,500円)で頒布していますので、事務局 (arib-nenkan@arib.or.jp) までお問合せください。

【本誌】

第1章 2010年度の動き

- (1)2010年度の概要
- (2)2010年度のトピックス

第2章 電波産業の動向

- (1)2010年度の概要 (2)電気通信事業
- (3)放送事業 (4)無線機器製造事業

第3章 電波産業の技術動向

- (1)2010年度の概要 (2)移動通信分野
- (3)放送分野 (4)衛星通信分野
- (5)小電力無線分野
- (6)電波環境に関する技術 (7)将来技術

第4章 情報通信行政の動向

- (1)2010年度の概要
- (2)我が国の情報通信行政の動向
- (3)海外の情報通信政策の動向
- (4)国際政策の推進

第5章 標準化団体・会議の動向

- (1)2010年度の概要 (2)国際電気通信連合(ITU) (3)世界電気通信標準化協調会議(GSC)
- (4)アジア・太平洋電気通信共同体(APT) (5)日中韓情報通信標準化会議(CJK)



- (6)3GPP/3GPP2 (7)IEEE 802 委員会 (8)XGP フォーラム
(9)国際標準化機構／国際電気標準会議(ISO/IEC) (10)海外標準化団体との連携

巻末

- (1)用語解説 (2)略語集 (3)索引

資料編

- (1)ARIB の概要 (2)便覧

付録 CD-ROM

- (1)電波産業年鑑 2011 本誌(本編・資料編)、別冊 (2)電波産業年鑑 2010
(3)2009 年以前の「技術動向」章 (4)ARIB 機関誌 (5)ARIB NEWS
(6)ARIB 事業案内 (7)ARIB 活動紹介パネル (8)総務省関連ライブラリ

【別冊】電波産業調査統計 ～統計で見る電波産業の推移～

- (1)国内産業規模の推移 (2)海外産業規模の推移 (3)付録 データ

ARIBの動き

準天頂衛星「みちびき」を用いた捜索救助衛星システムの高度化の実証試験

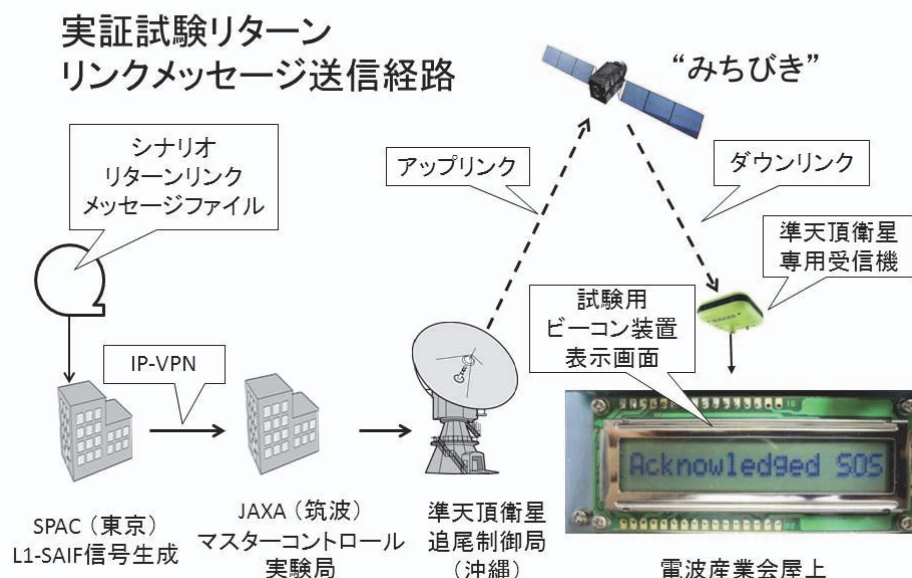
当会では、文部科学省の地球観測技術等調査研究委託事業として、会員企業である大洋無線(株)との共同研究により、独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)等が開発した準天頂衛星「みちびき」を用いた「測位衛星システムを利用した捜索救助衛星システムの高度化に関する実証試験」に、2010年度から取り組んでいます。その実証試験を当会のある日土地ビルの屋上において、11月21日及び22日の両日夕刻に関係省庁の立ち会いのもと実施し、無事終了しました。

この試験の目的は、捜索救助用ビーコン装置との双方向通信が、「みちびき」のL1-SAIF信号(サブメータ級測位補強データ)によって実現できることを実証し、遭難者の救助率向上に資するシステム構築の可能性を検証するものです。この背景には、海難・航空機事故の際用いられている捜索救助衛星システム(Cospas-Sarsat)用ビーコン装置の通報が一方方向の通信であるため、遭難者が感じる不安を解消することにより生存率の向上を図ることが必要であると考えられているためです。つまり救助側から情報(リターンリンクメッセージ)を提供し、例えば、通報の受信応答や簡易な問いかけを行うことにより、生存率の向上はもとより捜索活動の効率化及び誤警報の減少を図ろうとするものです。

本試験においては、リターンリンクメッセージの送信は「みちびき」から送信されるL1-SAIF信号領域の一部を利用して行われます。2011年度は、実際の衛星を用いての最終試験を行うため、財団法人衛星測位利用推進センター(SPAC)のご協力を得て、沖縄にある準天頂衛星追尾制御局からL1-SAIF信号に加えてリターンリンクメッセージを「みちびき」へ配信する仕組みの構築から行いました。(下図参照)

試験当日は遭難時のシナリオを想定して、「みちびき」を経由して配信するリターンリンクメッセージを専用受信機で受信し、試験用のCospas-Sarsat用ビーコン装置を用いて、所要の動作を行うことを確認しました。

これにより将来的には、リターンリンクメッセージ対応機能付きのビーコン装置、特に個人用のビーコン装置である PLB(Personal Locator Beacon)の普及に貢献することが期待されます。さらに、測位以外の分野での「みちびき」の利用の可能性を示すことが出来ると考えられます。



実証試験機材



実証試験の様子
(当会のある日土地ビル屋上)

第 186 回技術委員会（放送分野）を開催

第 186 回技術委員会（放送分野）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 2011年11月30日（水） 午後2時から3時30分まで
- 2 場所 当会第2会議室
- 3 議事概要
 - (1) 品質評価法調査研究会に関する活動の報告
 - (2) 第16回世界電気通信標準化協調会議（GSC）の結果の報告
 - (3) ETSIとの協力協定書の締結の報告
 - (4) 「CEATEC JAPAN 2011」出展の報告
 - (5) 第82回規格会議の開催の説明
 - (6) FOBTVサミットの結果の報告

「FOBTV Summit 2011」が開催される

テレビ放送の今後を検討する国際サミット「FOBTV (Future of Broadcast Television) Global Summit 2011」が、11月10日から11日まで中国上海市で開催されました。

地上波放送、エレクトロニクス及びネットワークの技術環境は、急速に進歩しています。その状況下、将来に向けた世界的なロードマップを描くにあたり、各国のリーダーが一同に集いビジョンを共有し世界的な協力関係を構築し促進させ共通戦略を立案し実行することで、地上波放送の最良かつ最適な方向性を確立させることを目的として、本サミットが開催されました。

サミットで展開されたセッションでは、「ブロードバンド環境での放送の役割とは」、「次世代の地上波放送システムとは」、「将来に向けた周波数問題と解決について」、「将来に向けた先進技術について」が主題でした。これらのテーマを各界のエキスパートが状況報告し共有して、将来の協力体制構築の必要性が確認されました。

サミットのアウトプットとして、将来型放送を構築するために最重要課題とされる要点を下記「共同宣言」としてステートメント発信されました。

【共同宣言】

地上波放送の将来に向けた世界的なアプローチに関して、標準規格の競合や重複を避けることと、新たなサービスを効率的に開発するために、サミット設立組織は、「将来の地上波放送システムの要件を定義する」、「地上波放送規格の統一を模索する」、「世界レベルでの技術共有」の3つの重要事項に合意しました。



FOBTV Summit 2011の様子

※ 主な参加機関

ATSC (Advanced Television Systems Committee)、CRC (Communications Research Centre)、DVB (Digital Video Broadcast Project)、EBU (European Broadcast Union)、ETRI (Electronics and Telecommunications Research Institute)、IEEE (Institute of Electronic and Electrical Engineers)、NAB (National Association of Broadcasters)、NERC-DTV (National Engineering Research Center of Digital Television)、PBS (Public Broadcasting Service)、Rede Globo、NHK、ARIB

放送新技術調査研究会

放送・通信連携放送サービス検討作業班 主任 齊藤 彦一

(株式会社 NHK アイテック マルチメディア・映像事業部 主幹)



今年6月より、放送新技術調査研究会の放送・通信連携放送サービス検討作業班で主任を務めております齊藤でございます。

ブロードバンド環境が家庭内に普及したことにより、家庭のテレビとインターネットが連携するテレビが当たり前になる時代が近いと考えられます。また、インターネットでのツイッターのような、ソーシャルテレビ的な機能やおすすめ番組サービスなど、新しい放送サービスが検討されています。日本でもインターネットとの連携が可能となるスマートテレビが登場しサービスが始まりました。

放送と通信連携サービスでは、放送とインターネット的なサービスを連携させることで、新しいコミュニケーション世界の生成が期待されています。そのためには、これまでのテレビとは異なる受信機の機能が必要となるとともに、携帯端末とテレビとの連携により実現するサービスも重要となります。このような放送・通信連携サービスの動向と、実施に必要な技術や課題の調査、および放送機能と連携機能の役割分担など多角的な調査研究を作業班で進めています。

テレビ受像機がリアルタイムでの番組視聴だけの受信機ではなくなりつつある時に、放送事業者が目指す通信連携の放送番組は、どのようなサービスとなるのでしょうか。本作業班では放送局や受像機メーカーの方、サービス事業に関係をする方など多彩な人材で、放送と通信の垣根がますます低くなり、境がなくシームレスに楽しめる新たな放送サービス技術の調査研究に取り組んでいます。

私と ARIB との関わりは、前身である放送技術開発協議会 (BTA) に遡ります。地上デジタル放送への移行とともに、制定に関わった規格が廃止となる時に、放送新技術の調査研究に携われる事に感謝いたします。

スマートテレビに関連するニュースや話題が多くなる昨今、作業班に与えられた時間は少なくなると思われますが、今後ともご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

気が付けば“もう”12月。月日が経つのが年々早く感じられるのは、何故なのでしょう。おかげで私は今年も、やり残していることが沢山あります。でも、新年までには“まだ”1ヶ月もあるのですから、ひとつでも多く今年中に片付けられる様、努力したいと思います。

(S.K)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp